



SAMUEL BECKETT FILM FESTIVAL

ON 30TH ANNIVERSARY
OF HIS DEATH

ベケット
映画祭

サミュエル
没後30年

『ゴドーを待ちながら』を観たことはありますか？

ベケット作品を映像化した超有名現代アーティストとは誰でしょう？

ベケット自身が監督した唯一の映画に主演した喜劇俳優とは？

そもそもあなたは、サミュエル・ベケットを知っていますか？

HAVE YOU EVER SEEN WAITING FOR GODOT?

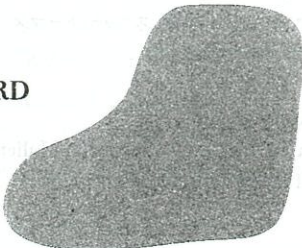
DO YOU KNOW THE VERY FAMOUS CONTEMPORARY ARTIST WHO DIRECTED
THE FILM VERSION OF ONE OF BECKETT'S WORKS?

DO YOU KNOW THE VERY FAMOUS COMEDIAN WHO
STARRED IN BECKETT'S ONLY MOVIE?

HOW WELL DO YOU ACTUALLY KNOW
SAMUEL BECKETT?



FRI. 20TH TO MON. 23RD
OF DECEMBER,
2019



上映作品 Program

[A] 『ゴドーを待ちながら』 *Waiting for Godot* (in English)

監督: マイケル・リンゼイ=ホッグ
出演: バリー・マクガヴァン ジョニー・マーフィー

Directed by Michael Lindsay-Hogg.
With Barry McGovern and Johnny Murphy.
Written in French 1949. Translated into English by the author in 1954. Filmed in 2000.

1本の木が生えた夕暮れの田舎道で、2人の男が「ゴドー」と呼ばれる人物を待つ。不条理演劇の代表作として演劇史に名を残し、多くの芸術家たちに強い影響を与え続けている。ベケットは1975年に初めて自身が演出した際、俳優たちに「待つという凍りついた画像を戯曲の主なモチーフにする」ことを求めたという。監督のリンゼイ=ホッグは、灰色の瓦礫が散乱する終末感あふれるセットで本作を撮影した。

[B] 『エンドゲーム』 *Endgame* (in English)

監督: コナー・マクファーソン
出演: マイケル・ガンボン デヴィッド・シューリス

Directed by Conor McPherson.
With Michael Gambon and David Thewlis.
Written in French 1956. Translated into English by the author in 1957. Filmed in 2000.

盲目の老暴君ハム、その召使いとして酷使される足の悪いクロヴ、バケツの中に入れられ噛み合わない会話を続けるハムの父親ナッグとその妻ネルが、外界と隔絶された部屋の中で「終わり」を「待つ」。タイトルは、駒の数もわずかになった「終盤戦」の意として使われるチェス用語から採られた。ピーター・ブルックはロジェ・ブラン演出の初演に影響を受け、きわめてベケット的な『リア王』を演出した。

[C] 『クラブの最後の録音』 *Krapp's Last Tape* (in English)

監督: アトム・エゴヤン
出演: ジョン・ハート

Directed by Atom Egoyan.
With John Hurt.
Written in English 1958. Filmed in 2000.

69歳の老人クラブが、30年前に録音された自らの声を聞いている。録音された30年前のクラブの声は、さらに「10年か12年前」に録音したテープを聞いたことについて話している。時を隔てる複数の「私」が舞台の上で重なる本作においては、「記憶」と並んで声を「聞くこと」がモチーフとも言える。ベケットはテクノロジーとメカニズムに関心を抱き続け、多くの作品に新しい機械やメディアが登場する。

[D] 『ハッピーデイズ』 *Oh les beaux jours* (in French)

監督: ジャン=ポール・ルー
出演: マドレーヌ・ルノー レジス・ウタン

Directed by Jean-Paul Roux.
With Madeleine Renaud and Régis Outin.
Written in English 1961. Translated into French by the author in 1962. Filmed in 2000.

風景に同化したようなウィニーのモノローグが2幕に渡って続く。第1幕では腰まで山に埋まっているが、第2幕になると首から下がすべて地中に埋まってしまい、身振りは極端に制限されてしまう。2013年にARICA(ありか)が上演した際には金氏徹平が美術を担当し、「山」は主にレディメイドの日用品でつくられ、それ自体が楽器ともなっていた。本映像では、偉大な名優マドレーヌ・ルノーの演技が素晴らしい。

[E] 『プレイ』 *Play* (in English)

監督: アンソニー・ミンゲラ
出演: アラン・リックマン クリスティン・スコット・トーマス
ジュリエット・スティーヴンソン

Directed by Anthony Minghella.
With Alan Rickman, Kristin Scott Thomas and Juliet Stevenson.
Written in English 1962. Filmed in 2000.

大きな壺の中に身体を入れ、首から上だけを外に覗かせた1人の男と2人の女が、三角関係のもつれについて早口で語る。舞台上演ではスポットライトが3人の間を行き来し、光が顔に当たっている間に発話する人物は半ば強制的にも見える独白を慌ただしく行うが、映像においては目まぐるしいカットが演技を強調し、視聴覚の双方を刺激する。すべての台詞がひととおり語られた後、再び同じ「芝居」が反復される。

『ねえ、ジョー』 *Dis Joe* (in French)

監督: ミシェル・ミトラニ
出演: ジャン=ルイ・バロー マドレーヌ・ルノー

Directed by Michel Mitrani.
With Jean-Louis Barrault and Madeleine Renaud.
Written in English 1965. Translated into French by the author in 1965. Filmed and broadcast in 1966.

ベケットがテレビのために書いた最初の作品。誰もいない自室で、どこからか聞こえる女の声にジョーが苛まれる本作は、『クラブ最後の録音』と「声」というモチーフが共通する。声はジョーが捨てた「緑の女」と呼ばれる女性が海で自殺を図ったことなどを語り、我々はその声を聞くジョーを見る。20世紀フランスにおいて最も傑出した演劇人カップルとされるルノーとバローの、声と表情に圧倒される19分。

『わたしじゃないし』 *Not I* (in English)

監督: ニール・ジョーダン
出演: ジュリアン・ムーア

Directed by Neil Jordan.
With Julianne Moore.
Written in English 1972. Filmed in 2000.

約15分の間、「わたし」ではないある女性についてのモノローグが、クローズアップされた「わたし」の口から語られる。猛烈な速度で矢継ぎ早に言葉が続く本作について、ベケットは「意味が理解されるかどうかは、あまり気にしていません。私が求めているのは、この作品が観客の理性ではなく神経にはたらきかけることです」と語っている。画期的なビジュアルは、ベケットが追求してきたミニマリズムの極限。

[F] 『フィルム』 *Film*

監督: アラン・シュナイダー
出演: バスター・キートン

Directed by Alan Schneider. With Buster Keaton.
Written in 1963. Filmed in 1964. Broadcast 1965.

ベケットが脚本を書いた唯一の映画作品。ベケットが信頼するシュナイダー監督によれば、わずか24分の「知覚する眼をめぐる」映画作品だ。キートンが演じる「見られたくない男」が、執拗な「眼」によって追いかけられる。「見られる」対象=オブジェ(O)である男が、「見る」主体=カメラ・アイ(E)とついに対峙する瞬間がクライマックス。ベケットは若いころ、キートンの映画に胸躍らされていたという。

『クワッド』 *Quad*

演出: サミュエル・ベケット

Directed by Samuel Beckett.
Written and first produced and broadcast in 1981.

南ドイツ放送局で上映されたテレビ用の作品。シュトゥットガルト・バレエ学校のために書かれたが、ベケットは本作に出演する4人の俳優を「踊り手」ではなく「無言芝居の役者」と述べている。「役者」はひとりずつ登場し、あるルールに則って真四角な舞台を歩き続ける。哲学者ジル・ドゥルーズは著書『消尽するもの』で、『クワッド』を含むベケットのテレビ作品を「消尽」というキーワードで分析している。

『息』 *Breath*

監督: デミアン・ハースト

Directed by Damien Hirst.
Written in 1966. Filmed in 2000.

ゴミだらけの舞台上、呼吸音と叫び声が聞こえるだけの非常に短い作品。台本の指定によれば35秒しかなく、叫び声は産声であるとされる。『ゴドー』でボゾーに「女たちは墓穴にまたがってことを生む。日の光が束の間瞬いて、そしてまた夜が来る」と語らせ、『ピース・オブ・モノローグ』の冒頭に「誕生が彼の死だった」と記したベケットらしい。世界的な現代アーティスト、ハーストがつくった空間に注目。

SAMUEL BECKETT FILM FESTIVAL

ON 30TH ANNIVERSARY
OF HIS DEATH

上映作品 Program

- [A] 『ゴドーを待ちながら』
- [B] 『エンドゲーム』
- [C] 『クラブの最後の録音』

- [D] 『ハッピーデイズ』
- [E] 『プレイ』『ねえ、ジョー』『わたしじゃないし』
- [F] 『フィルム』『クワッド』『息』

上映スケジュール Schedule

12/20(金)

18:00 開場 / 18:15-[A]『ゴドーを待ちながら』(トーク付き。20:30 終映予定)

12/21(土)

- 10:00 開場 / 10:15-[A]『ゴドーを待ちながら』(12:15 終映予定)
- 13:00 開場 / 13:15-[B]『エンドゲーム』(14:40 終映予定)
- 14:55 開場 / 15:10-[C]『クラブの最後の録音』(16:10 終映予定)
- 16:30 開場 / 16:45-[D]『ハッピーデイズ』(18:15 終映予定)
- 18:30 開場 / 18:45-[E]『プレイ』『ねえ、ジョー』『わたしじゃないし』(19:35 終映予定)

12/22(日)

- 10:15 開場 / 10:30-[B]『エンドゲーム』(11:55 終映予定)
- 12:45 開場 / 13:00-[C]『クラブの最後の録音』(14:00 終映予定)
- 14:15 開場 / 14:30-[F]『フィルム』『クワッド』『息』(トーク付き。各作品2回鑑賞。16:30 終映予定)
- 16:45 開場 / 17:00-18:30トーク「ベケットと現代アート」(出演:金氏徹平+田村友一郎 司会:小崎哲哉)
- 18:45 開場 / 19:00-[A]『ゴドーを待ちながら』(21:00 終映予定)

12/23(月)

- 10:15 開場 / 10:30-[F]『フィルム』『クワッド』『息』(トーク付き。各作品2回鑑賞。12:30 終映予定)
- 13:00 開場 / 13:15-[D]『ハッピーデイズ』(14:45 終映予定)
- 15:00 開場 / 15:15-16:15トーク「ベケットを演じる」(出演:安藤朋子+岡室美奈子 司会:小崎哲哉)
- 16:30 開場 / 16:45-[E]『プレイ』『ねえ、ジョー』『わたしじゃないし』(17:35 終映予定)
- 17:45 開場 / 18:00-20:00 ラウンドテーブル「21世紀のサミュエル・ベケット」(出演:岡室美奈子+金氏徹平+多木陽介+藤田康城+森山直人 司会:小崎哲哉)

上映会期中、10:00(20日は17:00)から終映時まで、ベケットに影響を受けた現代アーティストのアートブック展示を映像ホール外のロビーで開催いたします。ぜひお立ち寄りください。

サミュエル・ベケットについて:

Samuel Beckett (1906-1989)

アイルランド生まれの小説家、劇作家、詩人。1920年代後半と1937年以降は、大戦中を除いてほとんどパリで暮らした。『ユリシーズ』や『フィネガンズ・ウェイク』によって現代文学を革新したジェイムズ・ジョイスの助手を務め、作品は英語とフランス語の両方で執筆。第2次世界大戦中はフランスのレジスタンス運動に参加し、終戦後に執筆活動を再開する。1950年代に3部作の小説『モロイ』『マロウン死す』『名づけられないもの』を上梓。1952年に、3部作執筆中の「気散じ」として書いたという戯曲『ゴドーを待ちながら』を発表する。翌年上演されて大成功し、文学・演劇界における地位を確立。1969年にはノーベル文学賞を受賞した。ベケットの演劇はどの作品も、演劇の枠組みを揺るがすような実験的精神に満ちている。1989年、冷戦構造が崩壊したのと同じ年に死去。日本語訳は『新訳ベケット戯曲全集』(白水社)、『モロイ』『マロウン死す』『名づけられないもの』(河出書房新社)などが刊行されている。

“Beckett on Film”プロジェクト

ベケットはジャンルの越境を許さなかったが、ベケットの死後、2000年代初頭に、ダブリンのゲート・シアターの芸術監督であったマイケル・コールガンらの企画により、ベケットのほとんどの戯曲が映画化された。オスカーを受賞したアンソニー・ミンゲラやニール・ジョーダンら名監督と、ジェレミー・アイアンズ、ジュリアン・ムーア、アラン・リックマンら有名俳優も多数参加している。本映画祭ではこの内、『ゴドーを待ちながら』『エンドゲーム』『クラブ最後の録音』『プレイ』『わたしじゃないし』『息』を上映する。

*参考書籍:

- サミュエル・ベケット著 岡室美奈子・長島確 監修 岡室美奈子 訳『新訳ベケット戯曲全集1』(白水社)
- サミュエル・ベケット著 岡室美奈子・長島確 監修 岡室美奈子・長島確・木内久美子・久米宗隆・鈴木哲平・西村和泉 訳『新訳ベケット戯曲全集2』(白水社)
- サミュエル・ベケット著 岡室美奈子・長島確 監修 岡室美奈子・長島確・鈴木哲平・木内久美子・久米宗隆 訳『新訳ベケット戯曲全集3』(白水社)
- ジェイムズ・ヌールソン著 高橋康也・井上善幸・岡室美奈子・田尻芳樹・堀真理子・森尚也 訳『ベケット伝』上下(白水社)
- イノック・プレイター著 安達まみ 訳『なぜベケットか』(白水社)
- 高橋康也 監修 安達まみ・井上奈緒美・内田耕治・宇野邦一・川口喬一・来住正三・北山研二・郷路行生・斎藤信平・坂原真里 編『ベケット大全』(白水社)
- 堀真理子著『改訂を重ねる『ゴドーを待ちながら』』(藤原書店)
- 多木陽介著『(不)可視の監獄—サミュエル・ベケットの芸術と歴史』(水声文庫)
- 小崎哲哉著『現代アートとは何か』(河出書房新社)

主催: 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター

* 本研究プロジェクトはJSPS科研費 JP17H00910の助成を受けたものです。
* 上映作品の日本語タイトルと字幕は、すべて白水社版『新訳ベケット戯曲全集』の訳文を使用させていただきました。